

大日本スクリーン製造株式会社

2009年3月期 第3四半期決算説明会

2009年2月9日

資料の取り扱い上の注意

- ・本資料および口頭にて提供する将来の当社業績見通しは、直近で知り得る情報をもとに作成したものであります。しかしながら、世界経済やエレクトロニクス業界の技術変化、半導体・FPDパネルの市況など、当社を取り巻く事業環境は急速に変化いたします。つきましては、今後当社の業績見通しが本資料と異なる可能性もございますので、ご了解願います。
- ・本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切捨てで処理しております。比率は百万円単位で計算した結果を四捨五入して処理しております。

2009年3月期第3四半期決算概要

常務取締役

財務・経理戦略/IR担当 領内 修

本日のアジェンダ

- 第3四半期連結業績の結果と分析
- 四半期売上高・受注高データ
- 各事業環境について
- 再建に向けた施策
- サマリー

第3四半期連結業績結果

(単位：億円)	2009年3月期			
	3Q (2008年10月～12月)		9ヵ月累計 (2008年4月～12月)	
	実績	前年同期比	実績	前年同期比
売上高	517	△1	1,746	△226
営業利益	△22	△19	18	△98
営業利益率	△4.3%	—	1.1%	—
経常利益	△49	△37	△27	△108
当期純利益	△43	△31	△56	△99

第3四半期連結業績の分析（9ヵ月累計）

売上高

実績 1,746億円 通期計画 2,350億円（進捗率74.3%）

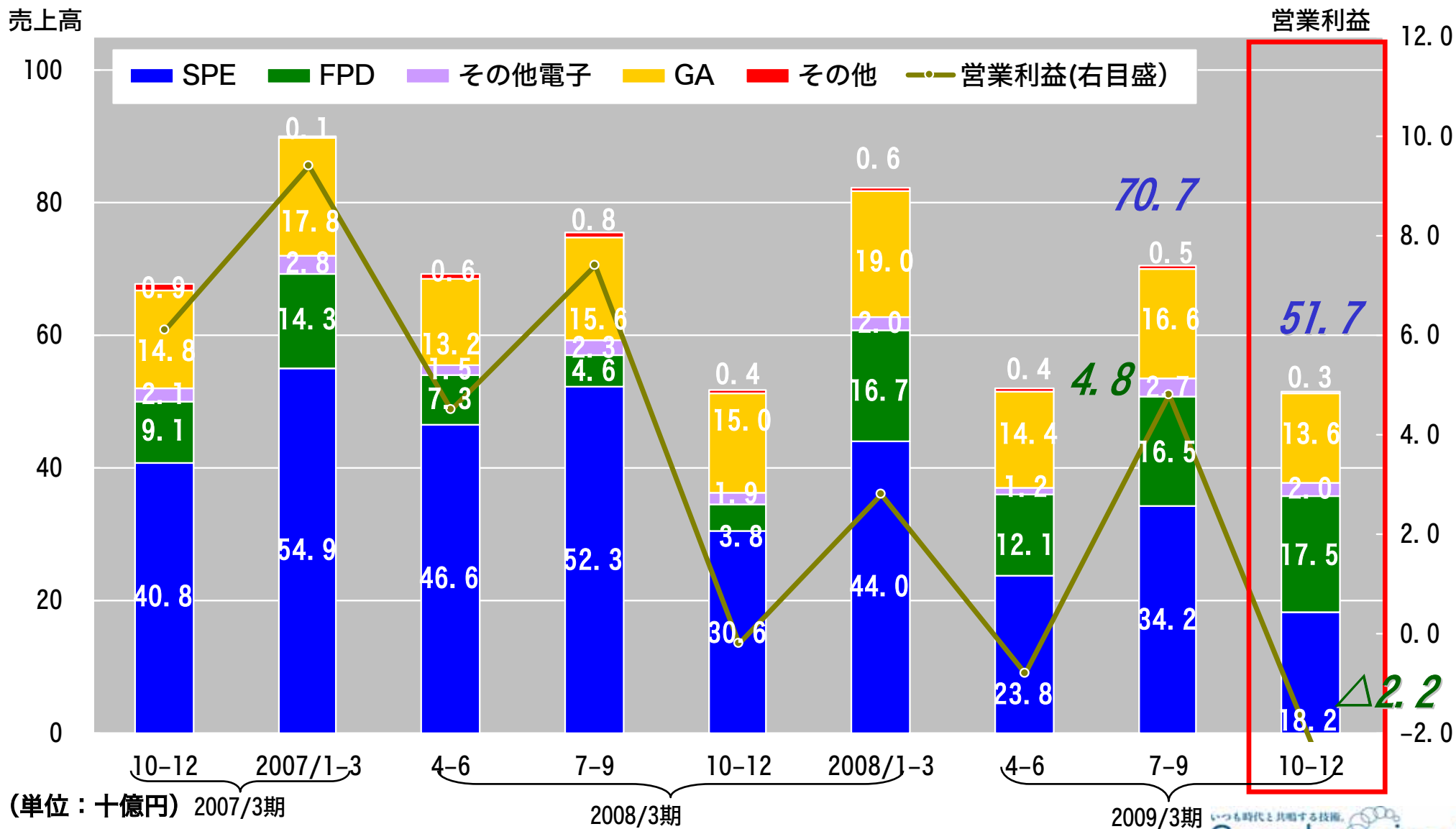
	9ヵ月実績 (対通期計画進捗率)	3Q（10月～12月）	
		売上高	ポイント
SPE	762億円（77.8%）	182億円	2Q実績に比べほぼ半減
FPD	462億円（73.4%）	175億円	堅調に推移
その他電子	59億円（59.4%）	20億円	海外比率が低下
GA	447億円（72.2%）	136億円	為替の影響もあり減少

営業利益

実績 18億円 通期計画 52億円

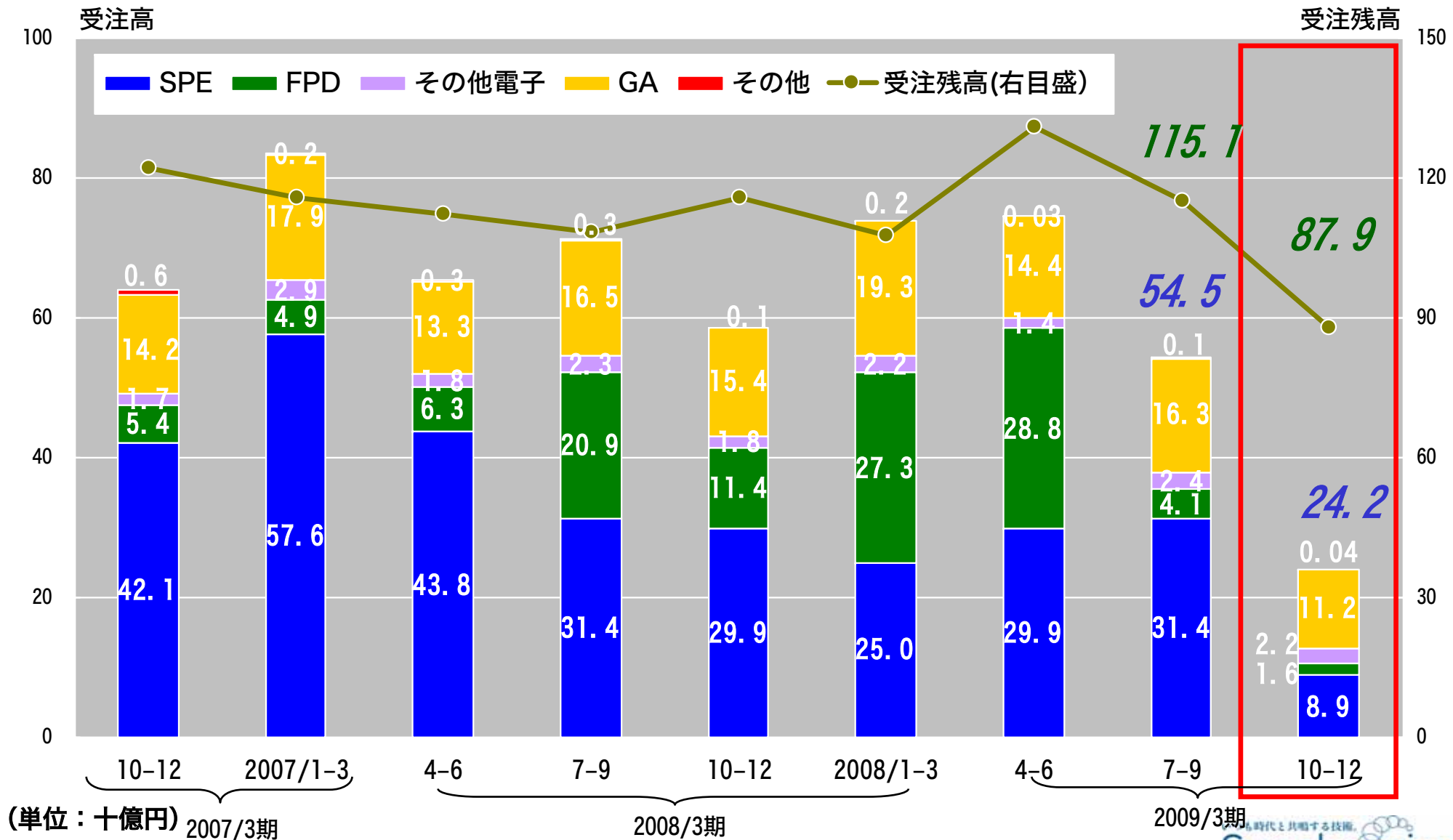
	9ヵ月実績	3Q（10月～12月）のポイント
電子工業用機器	1億円	SPE：売上大幅減に伴い赤字 FPD：売上堅調に推移し、黒字キープ その他電子：売上減少に伴い赤字
画像情報用機器	18億円	売上減少とユーロ安に伴い利益減少
その他	△1億円	

売上高・営業利益 四半期推移 (連結)



棒グラフの青文字は、四半期売上高合計を示す。

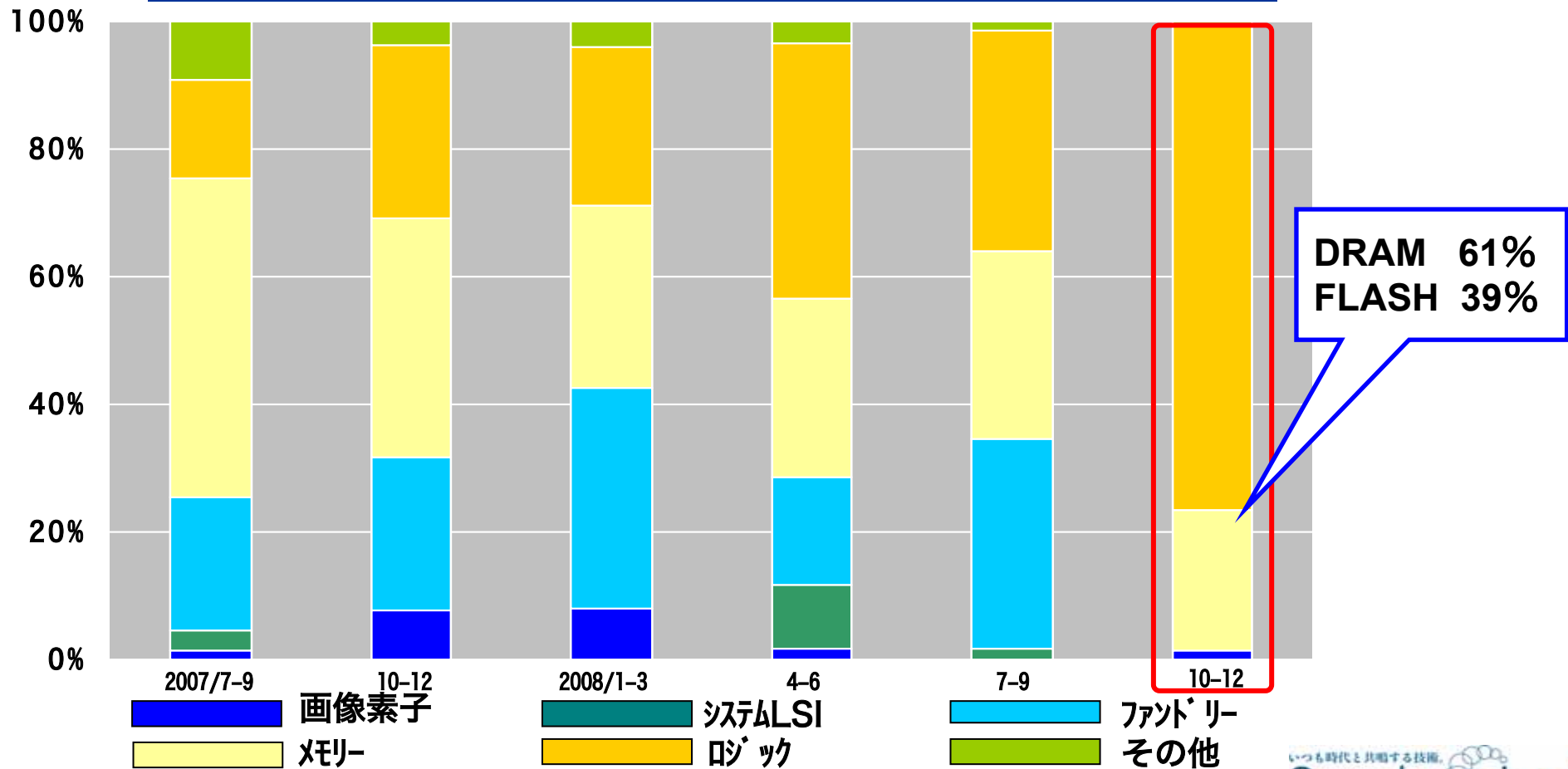
受注高・受注残高 四半期推移 (連結)



棒グラフの青文字は、四半期受注高合計を示す。

デバイス分類別受注比率 四半期推移(単独)

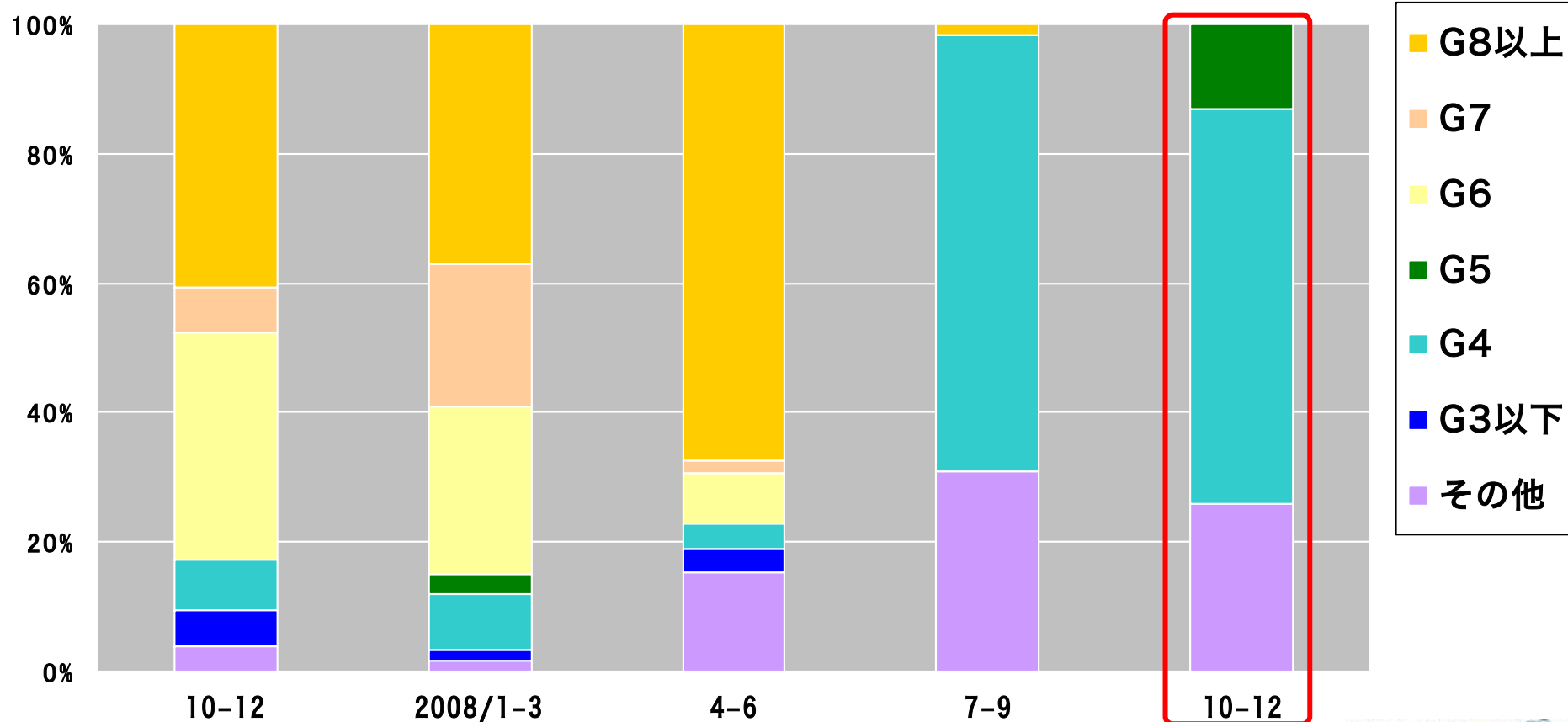
- 3Qの受注高は89億円
- 過去に経験のないほど低調な受注高
- 量産向け設備投資はロジックのみ実施



FPD製造装置事業

世代別受注比率 四半期推移(単独)

- 3Qの受注高は16億円、低調に推移
- 世代別では、第4世代が50%以上を占める
- 4Qの受注も厳しい状況が続く



画像情報処理機器

- **主力製品CTPの海外売上減少**
 - 販売台数の減少に加え、為替の影響大
- **インクジェット印刷機は売上を順調に伸ばす**
 - 主力のTruepress Jet520 が堅調
 - Inca社の大型サインディスプレイ用も堅調

その他の電子機器

- **主力のプリント配線板検査装置の売上減少**
 - 国内・アジアともプリント配線板市場低迷

再建に向けた施策

基本方針

将来に向けた事業の見極め
厳しい環境下での止血（赤字幅縮小）
資金流動性の確保 } を最優先

- 連結売上高1,500億円で利益を生む構造改革
- 来期(2010年3月期)の赤字幅を極限まで縮小
- 次期中期経営計画の策定は見送り、当再建プロジェクトの実行を最優先

△400億円規模のコスト削減

2月より順次実施、来年度内の効果見込む

2011年3月期に黒字化を目指す

実施項目

- **研究開発費の圧縮と開発スピードの加速**
 - ◆ 選択と集中を進め、研究開発費削減
 - ◆ 新製品の早期リリースと既存製品の競争力強化
- **新たな設備投資の凍結**
- **組織再編**
 - ◆ 研究開発体制の再編、不採算事業からの撤退検討
 - ◆ 国内外営業所・サービス拠点の統廃合
 - ◆ グループ子会社の再編
- **SOKUDOの抜本的な見直し**
再建計画の立案中(5月に明確な方向性提示)
- **為替変動に対する施策（画像情報処理機器事業）**
中国工場(MTMC)でのCTP生産機種拡大

再建に向けた施策

● 生産拠点の縮小・集約

- ◆半導体製造装置生産拠点の一時閉鎖
(野洲・多賀工場の生産棟閉鎖=>彦根地区へ集約)
- ◆熊本県工場用地取得計画の凍結(熊本県側と協議中)

● 人件費削減

- ◆役員報酬カット
(業績連動賞与ゼロ、基準報酬20%~50%カット<2月より実施>)
- ◆管理職/一般職の賃金カットおよび時間外労働の削減

● 人員削減

- ◆非正規社員/正規社員含め約1,600名の人員削減
=>2009年9月末めどに終了予定
〔 非正規社員・・・契約を更新せず
正規社員・・・希望退職者を募集 〕
- ◆2010年3月卒の新規採用活動の停止

資金調達

● 資金を取り巻く環境

- ◆ 棚卸資産の増加 (納入延期、投資計画変更)
- ◆ 資金回収条件の悪化 (支払遅延、検収長期化)

⇒ 資金負担は想定以上に増加

● 資金調達状況

間接金融により、下期(長期・短期)255億円調達
第3四半期 150億円
第4四半期 105億円(予定)

● 9月CB償還資金・運転資金・再建プロジェクト費用

- ◆ シンジケートローン組成等により対応予定
- ◆ 自己資産の売却(有価証券等)

今期業績予想

- 再建プロジェクト対応費用を含め業績予想は精査中
- 業績悪化に伴い配当予想を1株3円⇒無配に修正

再建に向けた取り組み

- 2010年3月期(来期)も厳しい事業環境を予想
 - ▶ 赤字幅縮小に向け、大胆な改革を断行
- 2011年3月期に黒字化果たす
- 本決算発表(5月)までに各事業プランを策定